

参考資料

1 用語等の解説

(1) 関連計画などの解説

No.	関連計画など	解説
1	目黒区基本構想(平成12年10月)、基本計画(平成21年10月)、実施計画(平成30年3月)	本区は、長期計画として基本構想、基本計画、実施計画を定め、長期計画の下に各種の補助計画を作成し、区政を総合的、計画的に推進することとしています。 基本構想は、21世紀初めを展望し目黒区のまちづくりの目標とその実現方策の基本的な方向を明らかにするものです。基本計画は、区の政策に係るすべての分野を含む総合的な計画です。実施計画は、基本計画を踏まえ、必要な事業を計画的に実施するため、財源の裏付けをもった具体的な事業計画です。
2	目黒区都市計画マスタープラン(平成16年3月)	目黒区都市計画マスタープランは、目黒区基本構想・基本計画が掲げる「ともにつくるみどり豊かな人間のまち」を実現するために街の将来像を示し、街づくりの基本的な方向性を示した、本区の都市計画に関わる基本的な計画です。関連する計画・事業との連携のもと、都市計画マスタープランに基づいて、市街地整備の方針や分野別計画の策定、個別事業の展開を進めます。
3	目黒区交通安全計画(平成28年4月改定)	本計画は、目黒区放置自転車対策基本計画を統合し、総合的な自転車対策を含め「交通事故のない安全で快適に暮らすことができるまち」の実現を目指すために策定された計画です。「子どもと高齢者の交通安全対策の推進」、「総合的な自転車対策の推進」を重点的に取り組む施策とするとともに、継続的に取り組む施策として、交通安全啓発の推進や危険・違反運転事故の防止などを掲げています。
4	目黒区交通バリアフリー推進基本構想(平成24年3月)	この構想は、駅やバスなどの旅客施設、道路や公園など公共施設のバリアフリー化を重点的かつ一体的に進めるため、法に基づく重点整備地区内で多くの高齢者や障害を持つ方などが利用する施設と施設間の経路を設定し、この経路をバリアフリー化するための取組の方向性を定めたものです。旅客施設、公共施設の各管理者は、この構想に基づきバリアフリー化の事業を具体化していきます。
5	目黒区みどりの基本計画(平成28年4月)	本計画は、区内のみどりの保全・創出・育成に向けた取組を総合的かつ体系的に進めていくための計画です。5つの基本方針と施策の方向性を設定するとともに、「人々の感性を豊かにするみどりづくり」「みどりが彩るまちづくり」「みどりを活用したコミュニティづくり」の3つを重点的取組として位置付け、推進施策と事業目標を設定して取組を進めています。
6	目黒区地域防災計画(平成29年3月修正)	本計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき、目黒区防災会議が作成する計画です。「自助」・「共助」・「公助」の適切な連携により、防災力の向上を図り、目黒区の地域及び住民の生命、身体及び財産を災害から保護するために、区及び関係防災機関がその機能を有効に発揮して、災害予防、災害応急対策、災害復旧・復興対策を実施することを定めています。

No.	関連計画など	解説
7	目黒区総合治水対策基本計画(平成22年5月)	本計画は、区内全域を対象に「水害から区民の生命身体を守る」、「水害による財産被害を軽減する」、「出水時も必要不可欠な都市機能を確保する」ことを目的に策定されました。雨水貯留・浸透施設の整備促進に加え、雨や水害に関する情報提供の充実、浸水防止や水防体制の強化などを掲げ、区民の皆さんと連携しながら治水対策に取り組んでいきます。
8	目黒区地域街づくり条例(平成19年4月)	区民に身近な街づくりを進めるにあたり、区、区民、事業者の責務を明らかにするとともに、区民の発意に基づく身近な地域単位での話し合いの場や、主体的かつ継続して課題解決に取り組む仕組みや進め方のルールを定めたものです。
9	目黒区産業振興ビジョン(平成27年6月)平成31年3月改定予定	本ビジョンは、企業自らの創意工夫や自助努力を尊重し、その特性に応じた総合的な施策を企業、区民及び区が一体となって推進することを基本方針とする「目黒区中小企業振興基本条例」を踏まえ、本区の産業振興を推進していくための取組の方向性、方針等を示すものです。
10	目黒区観光ビジョン(平成27年3月)	本計画は、地域の構成主体である区民、団体、事業者、区が相互に連携、協力し、地域の歴史や分野、産業、自然などさまざまな観光資源を生かしながら、人々の交流を促進し、にぎわいと活力ふれるまち、文化の香り高いまちを実現しようとする活動である「観光まちづくり」について、本区における活動のあり方や基本的方向性を示したものです。
11	東京都都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月)	「都市づくりのグランドデザイン」は、平成28年9月に東京都都市計画審議会から出された答申「2040年代の東京の都市像その実現に向けた道筋について」を踏まえ、2040年代の目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示したものです。「活力とゆとりのある高度成熟都市」を都市づくりの目標とし、目指すべき都市像の実現に向けて、分野横断的な視点から7つの戦略、30の政策方針、80の取組を示しています。

(2) 用語の解説

No.	用語	解説
【あ】行		
1	エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組のことです。ここでいう「良好な環境や地域の価値の維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しい街並みの形成、資産価値の保全・増進等に加えて、人をひきつけるブランド力の形成や安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承等、ソフトな領域のものも含まれます。
2	オープンカフェ	道路側の壁を取払ったり、店の前に客席を設けたりし、開放的な演出を凝らしたカフェやレストランのことです。近年においては、都市及び地域の再生、まちのにぎわい創出等のため、占有に関する規制緩和を行った上で、道路空間や河川空間をオープンカフェ等として活用する事例が見られます。
3	オープンスペース	本計画においては、都市における公園・緑地・街路・河川敷・民有地の空地部分などの建築物に覆われていない空間を総称して「オープンスペース」と呼びます。

No.	用語	解説
【か】行		
4	クリエイター	芸術、美術、デザインを始め、さまざまな分野で創作活動の取組や創造的な仕事を行っている人々のことです。
5	公開空地	本計画においては、市街地再開発事業等において設けられた一般公衆が自由に入出りできる広場や空間を「公開空地」と呼びます。
【さ】行		
6	目黒川桜まつり等運営協議会	目黒川の桜が都内でも有数の花見の名所となり、来訪者が非常に多くなっている状況の中、交通安全対策やトイレ、ゴミ問題、屋台等の出店などの課題が顕著になってきています。こうした課題を解決するため、来訪者が安心して安全に花見できるよう、桜まつりのイベント主催者や地域団体、警察署等の関係機関が連携・協議する場として平成24年12月に設置した協議会です。
7	自転車シェアリング	自由に貸出・返却できる貸し自転車で、借りたサイクルポートとは異なるサイクルポートに返却することができる仕組みです。東京都では平成28年2月から、千代田区・中央区・港区・江東区の4区で区境を越えて相互乗入ができる「広域相互利用」の実験を開始し、平成30年4月現在で、新宿区・文京区・品川区・大田区・渋谷区が加わり、利用できるエリアが9区に拡大しています。 目黒区は、平成31年度までにサイクルポートを20ヶ所設置し、電動アシスト自転車を200台配置する予定です。
8	自転車ナビマーク	本計画では、自転車ナビマークを指します。警視庁では、自転車の安全な通行を促すため、主として車道の左側端に自転車ナビマークの設置を推進しています。 自転車ナビマークは、自転車が通行すべき部分及び進行すべき方向を明示するものです。法令の定めのない表示であり、この表示自体に新たな交通方法を指定する意味はありません。目黒区では、平成30年3月に策定した目黒区自転車走行環境整備計画に基づき、自転車利用の多い駅周辺から段階的に自転車ナビマーク等を整備していきます。
9	自転車歩行者道	縁石線またはさく等の工作物により車道などその他の部分から物理的に分離し、自転車と歩行者を混合交通させる部分を設けたものをいいます。
10	シェアオフィス	企業や個人事業主がスペースを共有して使うオフィスフロアのことです。共用部を充実させ利用者同士の交流を促し、仕事のアイデア醸成につなげる「コワーキングスペース」と呼ぶタイプも増えています。
【た】行		
11	都市型水害	都市のもつ地理的な条件に起因する水害のことで、その災害要因としては、①地表がアスファルトなどに覆われていることによる流域の保水・遊水機能の低下、②地下利用など土地利用の高度化が進んでいることによる被害の増大、③ヒートアイランド現象や地球温暖化が原因と言われる集中豪雨の発生の大きく3つに整理されます。
12	都市施設	都市には、たくさんの人が集まって暮らしており、商工業といった各種産業の経済活動も盛んに行われています。こうした都市での諸活動を支え、生活に必要な都市の骨組みを形作る施設で都市計画に定めることができるものを「都市施設」といいます。

No.	用語	解説
【は】行		
13	バリアフリー	高齢者、障害者の日常生活の妨げとなる障壁（バリア）を取り除くことです。主として、段差の解消など、物理的な障害物の除去という意味で使われますが、社会的、制度的、心理的な障壁の除去など、より広い意味で用いられることもあります。
14	ポケットパーク	チョッキのポケットほどの公園という意味で、都市環境を改善するために設けられた小公園を指します。
【ま】行		
15	目黒川の水質浄化	本区のシンボリックな存在である目黒川は、区民が愛着を持って親しめる貴重な河川空間として整備しています。しかし、下流では川底に堆積したヘドロが腐敗するため、悪臭が発生し、川面が白濁化しています。そこで、水の流れを良くするための工事や清掃及びしゅんせつを行うとともに、平成7年度からは落合水再生センターより河川維持用水を導水しています。さらに水質浄化実験も行っており、その結果を踏まえて水質浄化に対して流域区と連携して東京都へ要望を行っています。
16	めぐろ桜再生プロジェクト	本区が管理する公園・緑道・道路緑地等の桜については、高齢化や生育環境の変化に伴う樹勢の低下により倒木や枝折れが懸念されています。そこで、地域の方のご意見や樹木医等の専門家の意見を取り入れながら桜再生実行計画を作成し、計画に基づいて桜の保全や更新の取組を進めています。目黒川の桜再生実行計画は、平成29年度に作成しました。
【や】行		
17	用途地域	用途地域は、さまざまな用途の建物が混在する無秩序な都市になることを防ぐために、それぞれの地域に適した用途の建物を集めるとともに、地域にふさわしくない用途の建物を制限するものです
【ら】行		
18	リノベーション	古い建築物の機能を今の時代に適したあり方に変えて、新しい機能を付与することです。

2 なかめスタイル

中目黒駅周辺地区街づくり協議会では、平成29年12月、中目黒に対する愛着や誇り（シビック・プライド）をもち、秩序と思いやりある自発的な行動をすることを「なかめスタイル」として、その考え方や具体的な行動を整理しました。一人ひとりが中目黒での暮らしをより良くするために必要なことを見つけ、解決方法を考えて、行動していく、この「なかめスタイル」に基づく意識や行動の醸成を図るための活動として、リーフレットを作成し普及を進めています。

「なかめスタイル」とは。

私たちの街、中目黒での暮らしを、より良くするために必要なことを見つけ、解決方法を考えて、行動していくこと。それが私たちの「なかめスタイル」です。

日々の生活の中で困っている人がいたら、

「それは、こうしたほうがいいよね」

「それなら、こういうことをしたいよね」
そう一人一人が考えて、みんなで考えて、街と人に思いやりを持って行動できたら、きっとこの街は、もっと良くなる。

みつける。かんがえる。こうどうする。

一緒にこれからの中目黒を考えよう。

2018年、「なかめスタイル」が始まります。

・発行所・
中目黒の街づくりを進めています
中目黒駅周辺地区街づくり協議会
住区住民会館・町会・商店街・東京商工会館所目黒支部等

・事務局・
目黒区

・問い合わせ・
info@nakamestyle.com

・ハッシュタグ・
#なかめスタイル

みつける。かんがえる。こうどうする。

なかめスタイル



CIVIC
THINK
FOR
THE CIVIC

いっしょにがんばってみませんか？ なかめのなかまとできること…

安らぎと思いやりのある中目黒は
誰かの不便をみんなで解消できる街

でも、
路上に看板やのぼり旗がある街は歩きやすい？
歩きタバコや歩きスマホはまわりにも危なくない？



緑にかこまれた美しい中目黒は
みんなが人にも自然にも優しい街

でも、
自転車やバイクが放置された街は美しい？
緑よりゴミ捨てされたゴミが目立っていない？



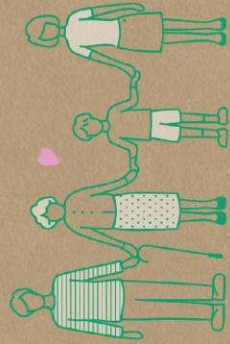
文化と賑わいのある中目黒は
創造的な人が集い、活気があふれる街

では、
音楽やアートが身近に感じられる街をつくらない？
街に溶け込むイベントやお祭りを一緒に考えない？



出会いやつながりを大切にできる中目黒は
手をとりあって未来を考えられる街

では、
子供や高齢者にも優しい人のつながりはどうつくる？
街の安全や防災のためにみんなで準備しない？



地区整備計画の改定に向けた各種調査

1. まちの現状・今後想定されるまちの動きを把握するための調査

資料や統計データによる基礎調査

目的: 地区の特性や課題を把握するための基礎的な情報(都市基盤・地域資源・人口等)の収集・分析

(1) 店舗・事業所分布状況調査

(2) 実地調査

目的: 地区内の店舗・事業所の現状や都市空間の使われ方の把握

調査内容: ①地区内の店舗・事業所の分布状況について
②地区内に滞在する人の過ごし方について
③地区内の公園等の公共空間について

＜調査する内容のイメージ例＞



地区の特性、現行の地区整備計画策定時からのまちの変化、住民・来街者・地区内関係者の意向を踏まえ、地域の特性や今後のまちづくりに向けた課題を把握

3 各種調査結果の概要（平成29年度実施）

2. 住民・来街者、地区内関係者の意向等を把握するための調査

(3) 住民アンケート

目的: 地区内の生活環境に関する実態や今後のまちづくりに関する意向の把握

対象者: 中目黒にお住まいの方々(1,800人)

調査方法: 郵送配布・郵送回収

(4) 来街者アンケート

目的: 地区内への来訪の実態やニーズなどの把握

対象者: 中目黒に訪れた経験のある方々(400人)

調査方法: インターネット調査

(5) 地区内関係者にアライング

目的: まちづくりに関する取組の状況や今後のまちづくりに関する意向の把握

対象者: 町会・住区住民会議、商店街・商工会議所、事業者・大学

調査方法: 対象者への個別にアライングまたは、グループインタビュー

(1)店舗・事業所分布状況調査

調査目的

近年、多種多様な業種の店舗・事業所が集積している中目黒駅周辺地区において、どのような業種の店舗・事業所がどこに分布しているのかを把握することを目的とする。

調査方法

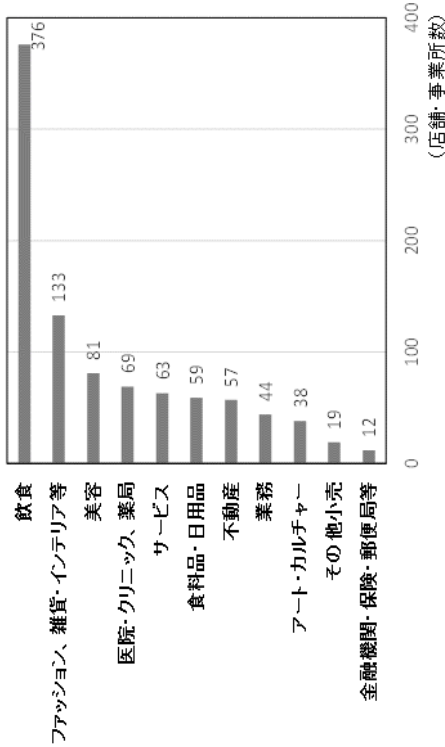
「中目の黒本」に掲載されている店舗・事業所の住所データをもとに、地理情報システム（GIS）を用いて地図上に店舗・事業所を表示する。

※GISでの表示は街区レベル（住居番号（号）前の街区/地番まで）。それぞれの街区にどのくらい店舗・事業所が集積しているのかを業種区分ごとに把握する。

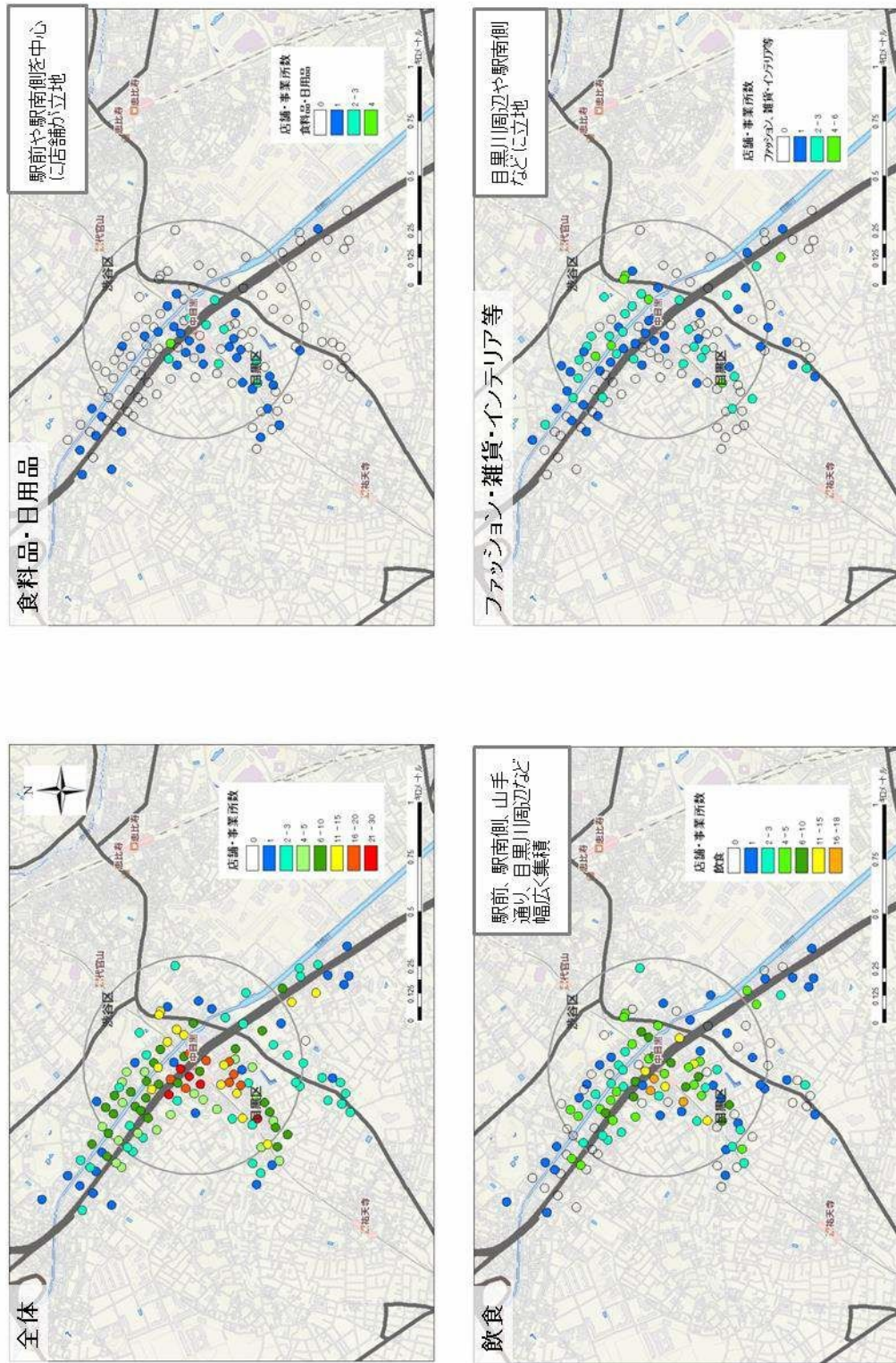
業種区分

	大分類	該当する店舗（例）
1	食料品・日用品	スーパー、コンビニエンスストア、青果店、ベーカリー、酒店、100円ショップなど
2	飲食	洋食・レストラン・カフェ、居酒屋、カフェ、和食・日本食、焼肉・お好み焼き・鉄板など
3	ファッション・インテリア等	婦人服、靴、時計・宝石・めがね、アパレル、セレクトショップ、生花、ベージュショップなど
4	その他小売	携帯電話、自動車、車用品、自転車、リサイクルショップなど
5	美容	美容室、化粧品、エステサロン、ネイルサロン、リラクゼーション、トニックサロンなど
6	サービス	クリーニング、ホテル、ジム、カラオケ、教室など
7	アート・カルチャー	ギャラリー、スタジオ、美術館、楽器・書籍販売など
8	金融機関・保険・郵便局	銀行、信用金庫、保険代理店、郵便局など
9	業務	会社、事務所、新聞販売など
10	不動産	不動産
11	医院・クリニック、薬局	医院、クリニック、薬局など

【中目の黒本に掲載されている業種区分別の店舗・事業所数】

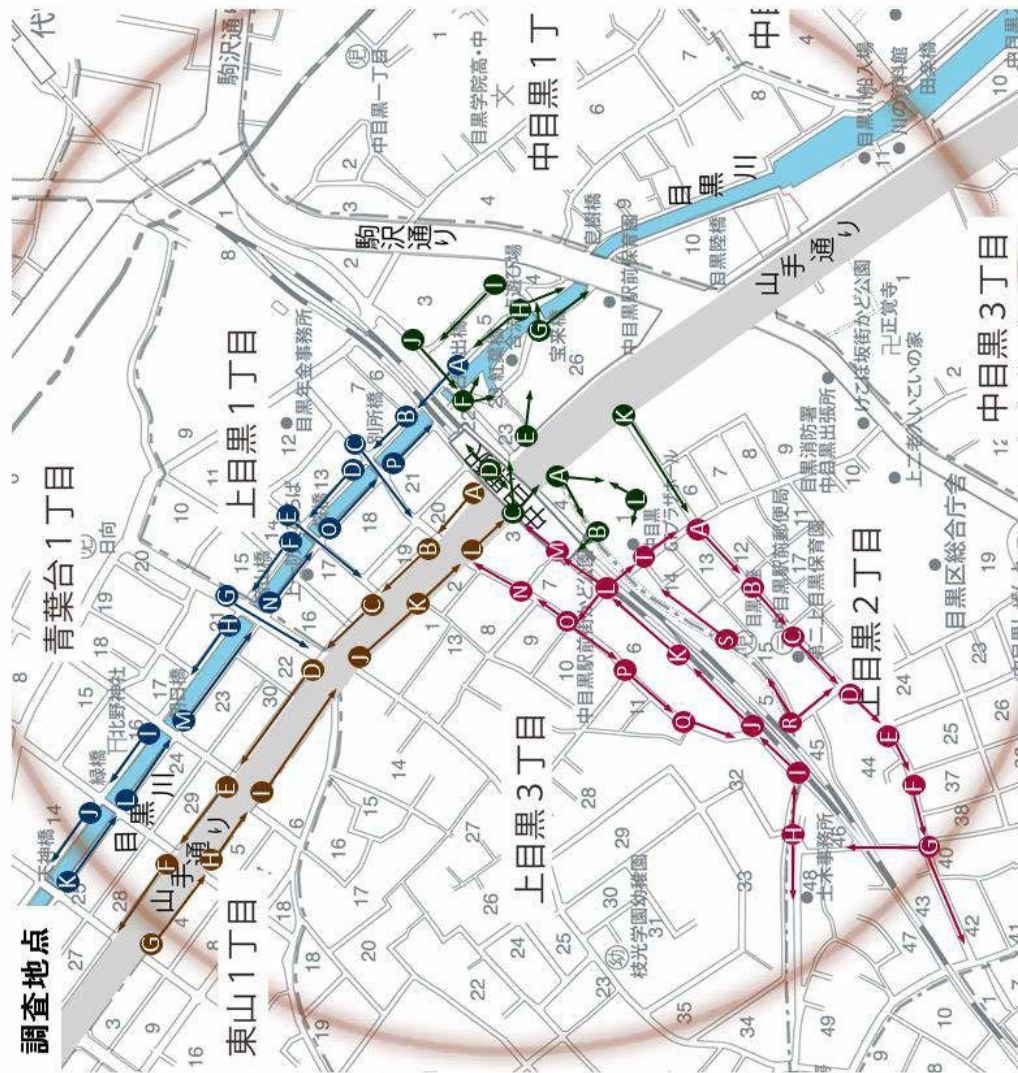


調査の結果(抜粋)



(2) 実地調査

調査目的	中目黒駅周辺における歩行者、滞在者等の動向や公共空間等の使われ方を把握する。
調査実施日	<平日> 平成29年11月20日（月）：晴れ <休日> 平成29年11月25日（土）：晴れ
調査時間帯	9:00～20:00 ※1時間おきに調査（11回/日）
調査項目	□ 歩行者及び滞留者の動向（属性、行動等） □ 車両通行状況 □ 路上のゴミ・置き看板等の問題点など
調査方法	各調査地点において、おおむね1時間おきに写真および調査項目についてのメモをとり、その様子を記録する。
調査地点	● 目黒川沿い（16地点） ● 山手通り（12地点） ● 中目黒駅周辺（12地点） ● 駅南商店街エリア（20地点） ※矢印は観測する方向（2方向観測した地点もある）



中目黒駅周辺の特徴

〈人通り、人の滞留など〉

- 人通り、人の滞留は、平日に比べて休日の方が多い
- 目黒川沿いは特にお昼～夕方にかけて人通りがあり、散策や犬の散歩、買い回りをする人が見られる
- 山手通りや駅南商店街エリアは、平日の通勤・帰宅時間帯、平休両方の昼食・夕食時間帯に人通りが多く、夕食時間帯は20～30代とみられる若者世代が多い
- 人の滞留は、駅改札口周辺、目黒川沿いの橋の上、蔦谷書店前、コンビニ前、中目黒G T地下広場などに多い。駅改札周辺、蔦谷書店前は待ち合わせ、コンビニ前は休憩や飲食、目黒川沿いの橋の上は写真撮影、休憩、立ち話などが多い
- 目黒銀座商店街は山手通り～郵便局間に比べ、郵便局以南の人通りが南に行くほど少なくなり、住民や目的のお店に向かう人ばかりになる

〈問題行為や危険箇所など〉

- 置き看板やディスプレイのはみ出し、客引きは、特に山手通り沿いに多い
- 客引きは平日に比べて休日の方が多く、活動エリアも広い
- 放置二輪は山手通りや駅周辺など交通便利性の高いと思われる場所や、目黒川沿いの駅から遠いエリアなど人通りの少ない場所に多い
- ごみのポイ捨ては駅南商店街エリアの人通りの少ないエリア（高架下や児童遊園など）に多い
- スーパードライフ（ライフ）脇の通りや蛇崩川緑道と高架下の交差点は、道幅が狭いものの自転車および自動車の交通量が多く、特に通行の多い通勤時間帯や夕方は危険
- 駅北口の山手通り横断歩道は、歩行者の通行量が多く、信号待ちにより歩道が狭い。休日はさらに人通りが増え、斜め横断や赤信号に変わってからの横断など、危険行為が見られる

(3)住民アンケート、(4)来街者アンケート

住民アンケートの概要

【調査目的】

中目黒駅周辺地区における住民の行動や地区に対する意識、今後のまちづくりに関する意向を把握することを目的とする。

【調査項目】

- ①基本属性について
性別、年代、職業、家族構成、居住地、居住年数、
住居形態 など
- ②地区内の利用状況について
目的ごとに利用するエリア
- ③地区に対する意識について
地区の住みやすさ、魅力に感じているところ、
困っていること など
- ④今後のまちづくりについて
必要だと思ふ施設等の整備・改善、充実してほしい
まちづくりの活動、望む街としてのイメージ など

【調査仕様】

- ①調査期間 平成29年9月20日～10月10日
- ②回収数 602サンプル(33.4%)

来街者アンケートの概要

【調査目的】

中目黒駅周辺地区に来訪経験がある人を対象として、地区への来訪の実態やニーズなどを把握することを目的とする。

【調査項目】

- ①基本属性について
性別、年代、職業、世帯構成、居住地
- ②地区内での行動について
利用目的、利用頻度、利用時間帯、交通手段、
よく利用するエリア など
- ③地区に対する意識について
地区の魅力、地区で気になること・困ったこと など
- ④今後のまちづくりについて
望む街としてのイメージ など

【調査仕様】

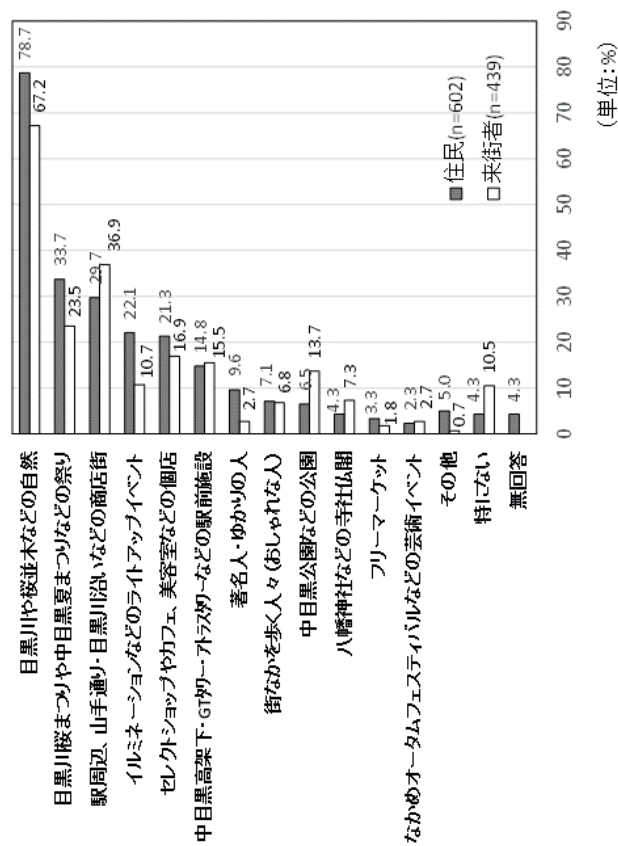
- ①調査期間 平成29年9月22日～9月26日
- ②回収数 439サンプル

調査の結果(抜粋)

住民アンケート・来街者アンケート結果の比較

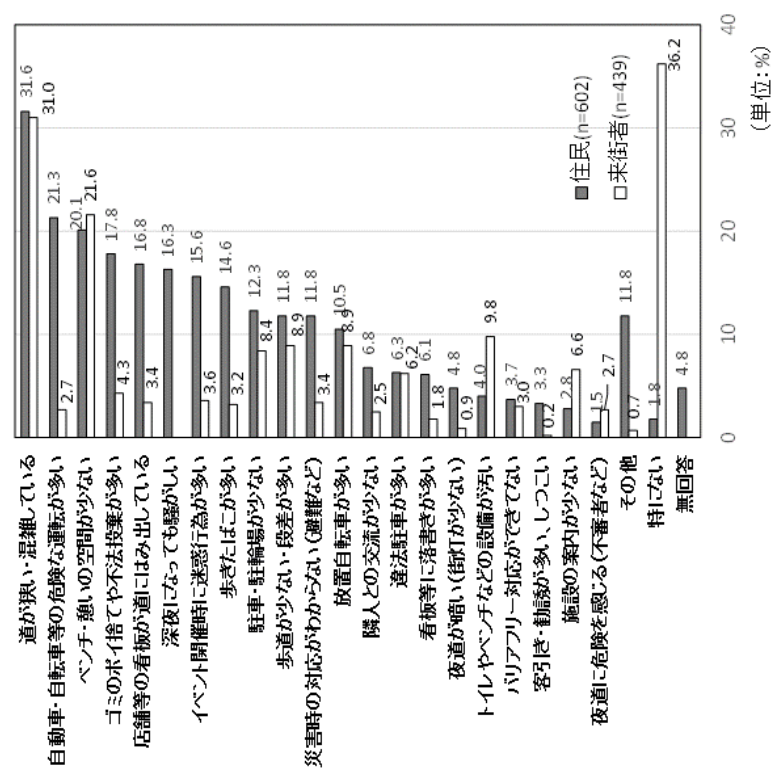
- 地区内の魅力を感じることは、住民・来街者ともに、「目黒川や桜並木などの自然」が多い
- 次いで、住民は「目黒川桜まつりや中目黒夏まつりなどの祭り」が、来街者は「駅周辺、山手通り・目黒川沿いなどの商店街」が多い

【地区内の魅力を感じる場所(住民・来街者の比較)】



- 地区内で困ることは、住民・来街者ともに、「道が狭い・混雑している」が多い
- 次いで、住民は「自動車・自転車等の危険な運転が多い」が、来街者は「ベンチ・憩いの空間が少ない」が多い

【地区内で困ること(住民・来街者の比較)】



(5)地区関係者ヒアリング

調査目的

中目黒駅周辺地区に関わりをもつ、地域の関係者を対象に、地区の変化や問題点に関する情報の収集や、まちづくりに関する取組の状況及び今後のまちづくりに関する意向を把握することを目的とする。

調査対象

街づくり協議会メンバーである、町会、住区・住民会議、商店街、商工会議所をはじめ、中目黒駅周辺地区に関わりのある事業者や大学を対象とする。

ヒアリング対象	ヒアリング参加者	ヒアリング実施日
町会・住区住民会議	新上六町会、上一東町会、上目黒一丁目町会、伊勢脇町会、烏森住区住民会議	2017年10月10日
	青葉台日向町会、新上六町会、上三烏森町会、上二東町会、上三町会、中目黒八幡町会、菅刈住区住民会議、中目黒住区住民会議	2017年10月12日
商店街・商工会議所	中目黒駅前商店街振興組合、目黒銀座商店街協同組合、中目黒西銀座商店街振興組合、中目黒GTプラザ商店会	2017年9月26日
	東京商工会議所目黒支部	2017年10月3日
事業者・大学	宮川製菓株式会社	2017年11月8日
	株式会社ゼルス	2017年10月4日
	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社	2017年10月5日
	スターバックスコーヒーージャパン株式会社	2017年11月14日
	株式会社LDH JAPAN	2017年10月10日
	東京音楽大学	2017年9月28日

ヒアリングの結果(まとめ)

<地区の変化>

- ・ 目黒川沿いなどを中心に、エリアを広げながら、店舗やオフィス、住まいの入れ替わりが活発に起こっている
- ・ 昼夜・平休日それぞれ違う特徴をもった人々が中目黒を利用している

<地区が抱えている問題>

- ・ 地区に関わる人が増えて多様になることで、飽和や不足が生じて、モラルを保ちづらくなっている
- ・ 様々な人々が地区に関わる一方で、主体間での情報の伝達や、人々のつながりが薄れてきている

<地区で実施しているまちづくりの活動>

- ・ 清掃活動は、各主体がそれぞれ実施している
- ・ 桜まつりやジュエルドームなど地区を代表するイベントで各主体が協力して実施している
- ・ アートのイベントなど新しいイベントも開催されてきている
- ・ 現在は活動を実施していないが中目黒に貢献したいという意識をもつ事業者が見られる

<まちづくりの活動を実施するうえでの問題点>

- ・ 町会や商店街では人材不足が生じている
- ・ 新しい事業者や住民による地域活動への参加が少ない
- ・ 街全体として活動するための主体間の連携が十分でない
- ・ 活動の場が不足している
- ・ 各主体で情報を共有できていない

<まちづくりの活動に関するアイデア/取組みたいこと>

- ・ 新しい住民が活動に参加しやすい工夫、住民向けのイベントの開催
- ・ 生活に関するルールの周知や緊急時に備えた活動の実施
- ・ 地域の関係者が連携できる組織の構築、情報共有の仕組みづくり
- ・ 目黒川を生かした取組(通りの名称をつけるなど)
- ・ アートやデザインを生かしたイベントの開催

<今後のまちづくりに対する意向>

- ・ 地域に関わる人々による話し合いの場づくり・連携した活動の推進
- ・ 次世代を担う人材の育成・継承
- ・ なかめスタイルの普及
- ・ 街としてのイメージづくり、ブランディング
- ・ 街への集客及び回遊性の向上

ヒアリングであがった中目黒の魅力・将来の姿として期待されていること

＜中目黒の魅力＞

【様々な人々が行き交い街に活力がある】

- ・ 駅前には1日約6万人が集まるだけの集客力がある。また、平・休日での来訪者層が違いそれぞれ魅力がある。
- ・ 渋谷や代官山など魅力と個性をもつ街にも近い。電車や地下鉄など交通利便性が高い。

【ゆるやかで心地よい環境がある】

- ・ 目黒川や桜などの木々があって、ゆったり時間が流れているという感覚がある。
- ・ 中目黒の良いところは、いろんなものが混在している居心地の良さだと思う。

【創造的で感性豊かな人々が集まっている】

- ・ クリエイターなどモノ創りをする人たちが多く街だと思う。
- ・ こだわりの尖った特徴をもつ店舗などがある。

【住む人・訪れる人に品があり意識が高い】

- ・ 美意識が高く、知的好奇心をもつ人たちが多く。
- ・ 住民にモラルがある。□美意識の高い女性が訪れている。

【街のイメージが良く、発信力がある】

- ・ 若い人たちが一度は住みたい場所になっている。
- ・ 住む人も働く人も自分の街と誇りを持っていく。
- ・ ブランドとして発信できる可能性を感じる。

＜将来の姿として期待されていること＞

【音楽やアートを中心に文化を創造・発信できる街】

- ・ 音楽やアートを楽しめる場所になりたい □日常生活の中でアートに触れるシーンをもっと増やしたい。
- ・ クリエイティブシティにしていきたい。
- ・ 2020年は世界中が東京を見るタイミングであるので、中目黒から若い才能を世界に発信したい。

【「今」と「これから」が調和する街】

- ・ これまでの魅力と新しい魅力が融合しているようなシーンを見せられたら良いなと思う。
- ・ 従来から住み・働いている人々と新しく住み・働きはじめた人々が仲良くできる場所にしていきたい。

【品位や感性を生かした街】

- ・ ポイ捨てしたりすることがカッコ悪いというまちの雰囲気になってほしい。
- ・ 女性の感性を街づくりを生かしてほしい。